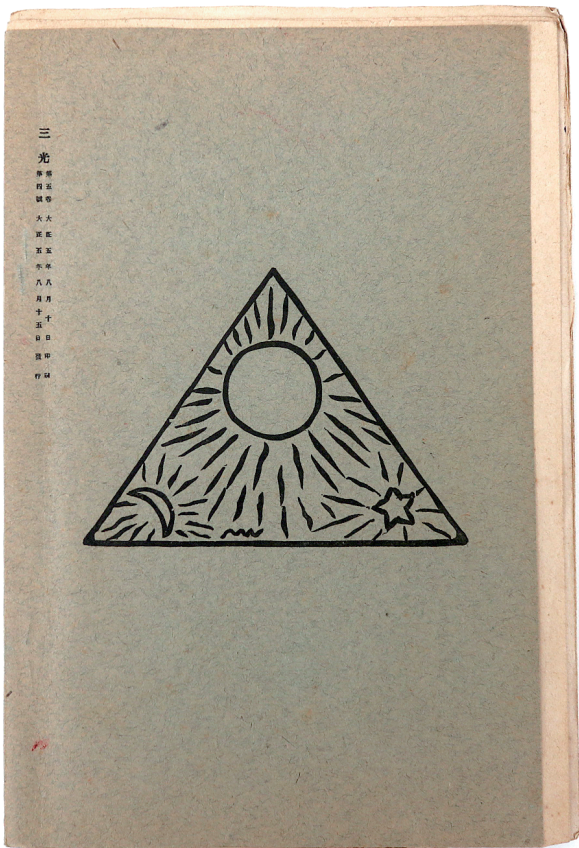
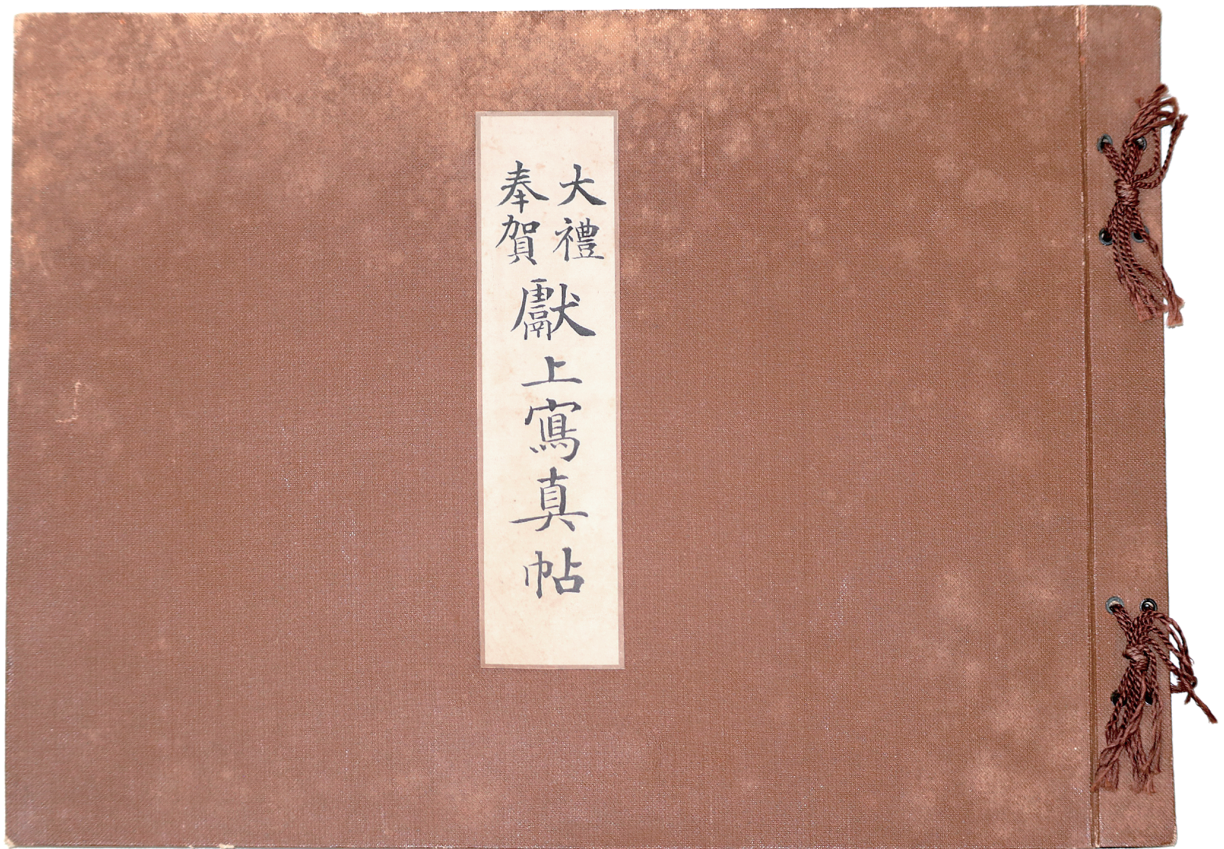




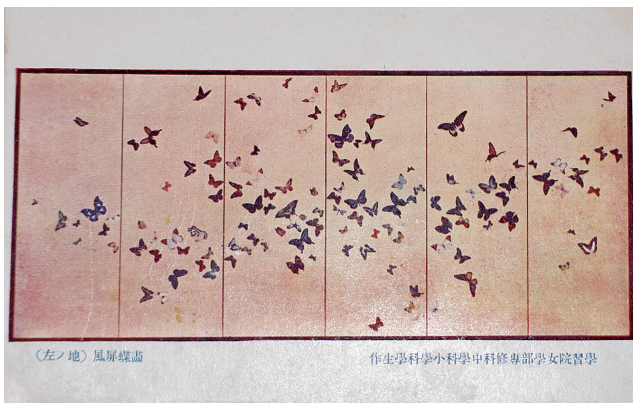
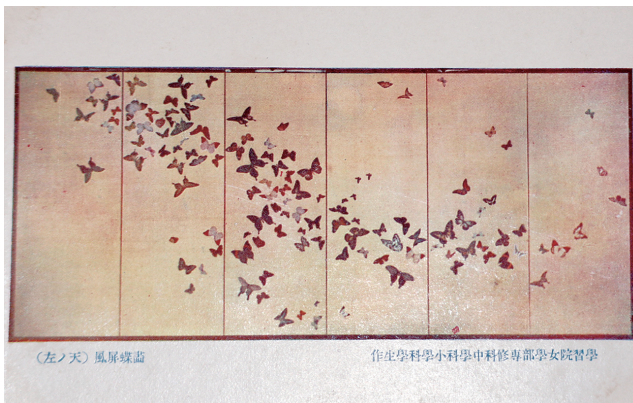
【梅田・那須 口絵1】三光 [1-5・10・11・12・14・15]



【梅田・那須 口絵2】三光 第五卷四号 [1-13]
表紙 (右) は有島生馬「天使」、裏表紙 (左) は長原止水の作



【梅田・那須 口絵3】大禮奉賀献上写真帖 [2-28]



【梅田・那須 口絵4】學習院女学部專修科中学科小学科学学生作画蝶屏風 [2-32]

旧華族家資料目録Ⅳ 三島家史料目録

梅田 優歩
那須 香織

学習院大学史料館（以下「当館」）では、平成二九年（二〇一七）より比較的小規模の所蔵資料群から、旧華族家のものについて目録を公開してきた^{〔1〕}。本稿は旧華族家資料目録の第四回目として「三島家史料」の目録を掲載する。

一、資料の来歴

当館所蔵の「三島家史料」は三島家旧蔵の資料である。当館では平成一七年（二〇〇五）に社団法人昭和会館（当時）の委託研究「男爵家の成立と足跡の研究」の成果として、『昭和会館創立八〇周年記念 男爵物語』を刊行した。その編纂にあたり、同書二巻「男爵の記録」掲載の座談会にご協力いただいた向山謹子氏より、三島家所有の資料についての相談があった。同年に向山氏の姉・三島昌子氏より紋付「5-38」等の寄贈を受けて以来、折に触れて書籍・資料を受け入れてきた。

当館では寄贈の都度、資料の一覧を作成していた。しかし、三島家より当館に寄贈される際、三島昌子氏による整理や補足が付した状態であることなど、その都度寄贈された書籍・資料のまとまりから現秩序の意義を見出し難いことをうけ、本目録では平成三〇年までに寄贈いただいた資料を統合し、目録を作成した。

なお、同家からは書籍の寄贈も多数うけており、それらは一般図書として扱い、閲覧の利便をはかった。

二、関連資料の所在

当館所蔵資料は、三島家内で整理の上、資料と関係が近い機関へ寄せられた資料である。そのため当館所蔵資料のみで三島家旧蔵資料の全容をはかることはできない。これらを鑑み、同家旧蔵資料全体の理解を目的として、関連資料の情報整理を試みる。

他館の三島家旧蔵資料としてまず国立国会図書館憲政資料室の「三島通庸関係文書」・「三島弥太郎関係文書」、那須野が原博物館の「三島農場関係史料」・「三島家文書」^{〔4〕}が比較的点数がまとまった資料群として存在する。憲政資料は旧蔵者別に整理しており、「三島通庸関係文書」・「三島弥太郎関係文書」とともに書簡の部と書類の部に大別される。このうち、「三島弥太郎関係文書」については、一般社団法人尚友倶楽部より『三島弥太郎関係文書』^{〔5〕}と題し、三島家所有資料および関係機関所蔵資料による補訂の上で、一部が翻刻・解説されている。尚友倶楽部ではほかに三島家に関わるものとして『柴山景綱事歴（抄）』^{〔6〕}、『三島和歌子覚書』^{〔7〕}、日本初のオリピック代表選手三島弥彦 伝記と史料^{〔8〕}なども刊行されている。各書籍の内容紹介は割愛するが、『三島和歌子覚書』の後書からは三島家所有資料および尚友倶楽部保管の三島家旧蔵資料の調査整理成果として先述の書籍刊行につながっていることがうかがえる。

那須野が原博物館所蔵「三島農場関係史料」は栃木県の那須野が原開拓に参画した三島農場の経営にまつわる資料である。三島農場は同地におけ

る民間農場の初例である墾耕社の解散を期に、三島通庸・弥太郎が創設した農場である。同資料群は明治一九年（一八八六）から同農場が戦後に解体する頃までの広範な時期に及ぶ内容を有する。農場経営にまつわる資料のため、三島家旧蔵資料の中でも同家の財政に関わる内容であるが、本邸においての家政的な内容とは資料の性格を異とする。また、同館所蔵の「三島家文書」は平成一九年（二〇〇七）に三島家から寄贈を受けたもので、資料群は三島農場に関わるものに加えて三島家個人の資料を含むものである。⁹本資料群については、令和三年（二〇二二）一月二〇日に同館にて、特に個人に関わる資料を中心に閲覧・調査を実施した。これらの資料には三島農場およびその周辺との地縁を有する性質のもの以外にも、広く三島家の動静をうかがえる内容のものも含まれていた。¹⁰

また、内藤一成・水野京子・土田宏成「史料からみた土木県令三島通庸（実像再構築への第一歩として）」（『土木史研究 講演集』三一、平成二三年）ではボーイスカウト日本連盟資料センター所蔵の三島家旧蔵資料を紹介している。同講演によると三島家より二度の寄贈を受けており、少年団・ボーイスカウト関係者から三島通陽宛の書簡も確認されている。

三、旧蔵者経歴

三島家は、明治二〇年（一八八七）に明治維新の勲功により三島通庸が子爵を授かり華族に列せられた家である。三島通庸は天保六年（一八三五）六月一日に薩摩藩士・三島通純の長男として生まれる。明治四年に東京府庁に出仕し、翌年には教部大丞を務めた。明治七年に酒田県令に就任、以後鶴岡、山形、福島、栃木の各県令を歴任、同一七年には栃木県令と内務省土木局長を兼任した。翌年、第五代警視總監に就任し、明治二一年に亡くなるまで務めた。

また、通庸の長男で第八代日本銀行総裁を務めた三島弥太郎（一八六七～一九一九）の代になると、当時の政財界の要職を担った人物と多くの縁戚関係を結んでいく【図1】。三島家出身者およびその親戚関係者の近代

以降の政治・経済・文化へ及ぼした影響は大きい。

当館が寄贈を受けた資料は、弥太郎長男・通陽世代以降の三島家の人物に関する資料が多く、内容は各人の学習院在学中のものが多数を占める。これらの資料には三島通陽夫人・純（旧姓松岡）や養継嗣・義温（旧姓平田）が三島家に入る以前の学生時代のものも含まれる。このため、旧蔵者個人が特定できる資料も多い。以上から、本章では特に資料としてまとまった点数を有する通陽・純・義温・昌子ら四名の経歴を個別に紹介する。

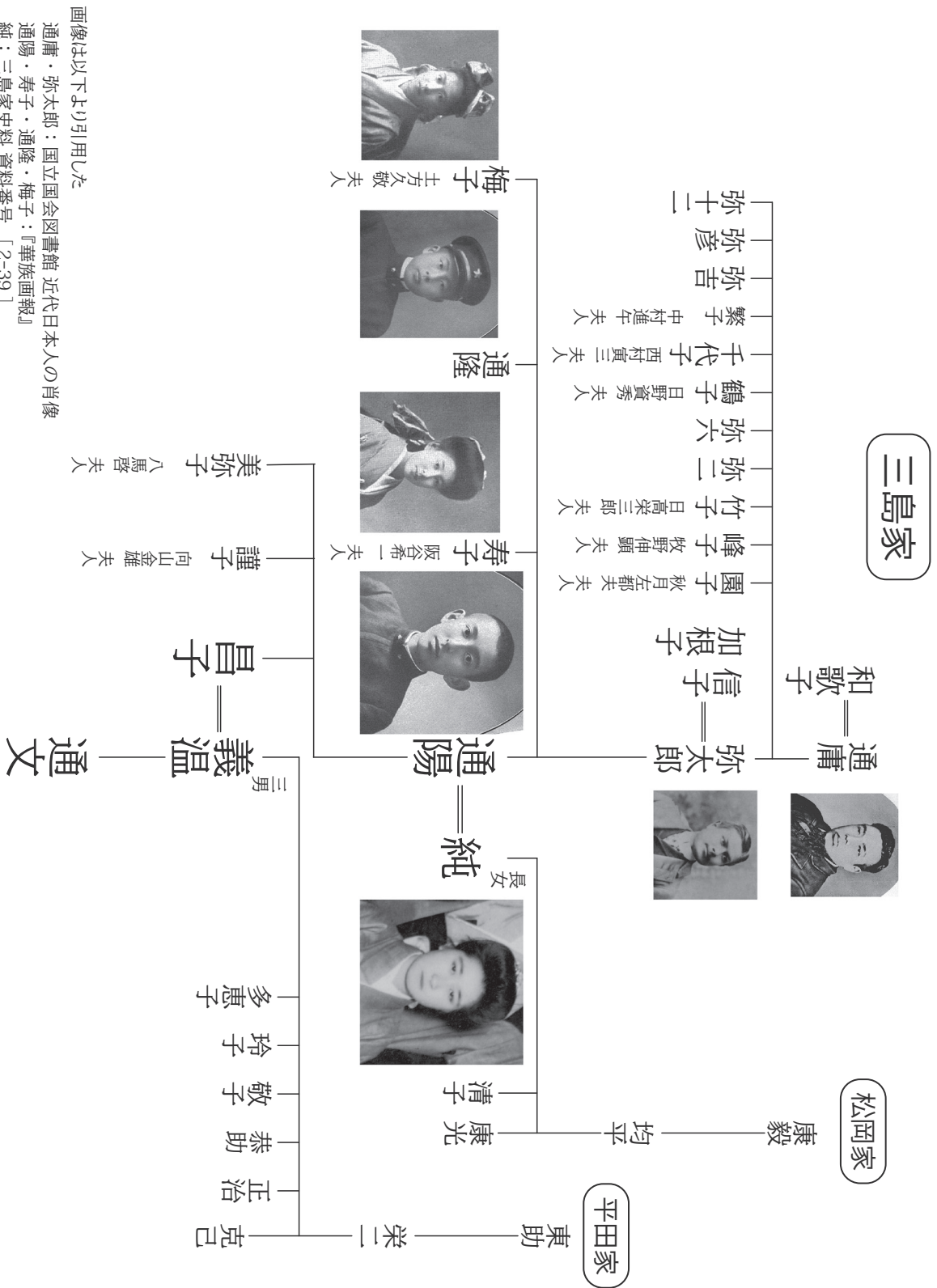
●三島通陽 みしまちはる（一八九七～一九六五）¹¹

明治三〇年（一八九七）一月一日、父・三島弥太郎と母・加根子（四条隆譚三女）の長男として東京麻布龍土町に生まれる。明治三六年九月に学習院初等科に入学する。初等科五年生の四月に叔父・三島弥彦に伴われて観戦した野球試合にて胸部にフアールボールをうけ肋膜炎を発症。加療の後、大磯の三島家別荘にて数年にわたり休学療養する。明治四三年に療養先の大磯小学校六年級に入る。翌年四月に帰京、学習院中等科に入学する（この時、通陽一四歳）。中等科在学中は自宅から病弱を理由に通学が認められていた。大正四年（一九一五）に学習院高等科に進学するが、肋膜炎の再発により中退する。¹²同七年に叔母・峰子の夫でありパリ講和会議次席全権大使の牧野伸顕の随員としてパリへ向かいしばらく遊学する。しかし、翌八年三月七日に父・弥太郎の急逝により帰国し襲爵する。この年の一月に松岡均平長女・純と婚約、大正九年に結婚する。¹³

また、幼少の頃より創作文芸活動に励み、三島章道の筆名で多数の作品を上梓し、大正五年に初の著作集『愛の雫』、同一五年に『三島章道創作全集』などを刊行している。他にも、学習院在学以来の友人である近衛秀麿や土方久敬（土方与志、のちに通陽妹・梅子と結婚）らとともに同五年には友達座を結成し、新劇運動にも携わった。¹⁴

『三島章道創作全集』序文によると、関東大震災を契機に日本のボーイスカウト創立に全力を尽くす必要を見出し、スカウト活動に専念していくため、文芸活動に一時終止符を打つことを述べているが、その後もスカウ

図1 三島家系図



トに関するものをはじめ多数の著訳を残している。日本のスカウト活動における通陽の活躍は大正一一年に全国組織の少年団日本連盟副理事長に選任以前より、主宰を担った千駄谷青年団に所属する少年らを基盤にボーイスカウトを作ろうとしたところから始まる。¹⁸⁾ 通陽のスカウト活動普及はその生涯にわたり、昭和二年(一九一七)に財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長、同六年には同連盟総長に就く。同六年に英国ボーイスカウト連盟よりブロンズ・ウルフ章が授与される。

政治家としては、昭和四年に貴族院議員に当選。貴族院廃止まで重任し、その間には小磯内閣において同一九年九月から翌年四月まで文部参与官、幣原内閣において同二〇年一月から翌年二月まで文部政務次官を担った。戦後は第一回選挙にて参議院議員に当選し、三年務める。昭和四〇年四月二〇日逝去。享年六八歳。

●三島純 みしますみ(一九〇一〜二〇〇七)¹⁸⁾

明治三四年(一九〇一)八月一日、父・松岡均平と母・ゆかの長女として東京麻布に生まれる。松岡均平は法学博士であり、東京帝国大学の教授を勤めていた。松岡家は純の祖父にあたる松岡康毅の代で華族に列せられた家である。松岡康毅は徳島藩に出仕ののち、明治四年より司法省に勤務。明治一九年から一年ほど欧州視察に派遣され、同二三年に東京控訴院長、翌年には検事総長となった。大正六年(一九一七)に男爵を授けられ、のちに第一次西園寺内閣の農商務大臣を務めた。またこれ以前に日本法律学校の再興に尽力。同校を日本大学へ改称し、初代学長を務めた。

純は幼少期に学習院幼稚園へ通い、明治四〇年に学習院女子部小学校に入学、大正三年に中等科へすすみ、同八年に女子学習院の本科を終え卒業する。この女子学習院時代に、三島通陽の妹である梅子と同級生であり、三島家と松岡家は家族ぐるみの付き合いをしていた。そのなかで通陽と出会った大恋愛を経て大正九年三月に結婚する。¹⁹⁾ その年一二月に長女・昌子、同一二年に次女・謹子、昭和元年(一九二六)に三女・美弥子が誕生する。

夫・通陽のすすめもあって大正一一年より日本に入ってきたばかりの

ガールガイド運動に携わっており、翌年には日本女子補導団副総裁に就任し、通陽とともに日本のスカウト活動に従事する。戦時中に解散させられたガールスカウトの再建を目指し夫とともにGHQをはじめ各方面に働きかけを行う。スカウト活動が復興したのち、昭和二四年に日本ガールスカウト連盟初代会長に選任される。同じくボーイスカウトの会長を務める夫・通陽を支えるため翌二五年に会長職を退任するが、その後も通陽とともに活動を行う。通陽の死後、昭和四一年にはガールスカウト日本連盟顧問に就任し、その後も、純は生涯で八十年以上の長きにわたり日本のガールスカウト運動に従事した。昭和四二年藍綬褒章、同五二年には勲四等瑞宝章を受章。晩年は俳句に親しみ、句集を二冊出版する。平成一九年(二〇〇七)満一〇五歳にて永眠。

●三島義温 みしまよしやす(一九一四〜二〇〇九)

義温は養子として三島家に入っており、旧姓は平田である。祖父の平田東助は貴族院議員、枢密院書記官長、法制局長官、枢密顧問官などを歴任し、明治三四年(一九〇一)第一次桂内閣の農商務大臣に親任される。明治三五年日英同盟締結の功により男爵を授けられる。明治四一年に第二次桂内閣の内務大臣となり、明治四四年に子爵にのぼる。さらに大正一一年(一九二〇)九月には内大臣となり、伯爵に陞爵する。²⁰⁾ 義温は平田伯爵家に父・平田栄二と母・静子の三男として、大正三年九月五日、東京神田区駿河台に於いて生まれた。大正一〇年学習院初等科に入学。昭和四年(一九二九)に中等科に進学する。初等科卒業の際には総代として謝辞を拝読しており、品行方正、優秀な学生であったようである。その後は、旧制東京高校から東京帝国大学法学部にすすむ。東京帝国大学卒業後は、海軍経理学校で訓練を受け海軍主計大尉となり、太平洋戦争の際には各地を転戦、ミッドウェイ海戦にも参加。予備役編入後は、川西航空機に入社する。²¹⁾ この間、昭和一七年一月に三島通陽・純と養子縁組、昌子と結婚する。²²⁾ 三島家に入ったのちは、栃木県那須郡狩野村(現・那須塩原市)村長や自身の仕事に従事する一方で、尚友倶楽部では理事も務め、日本近代史

関係資料の調査・研究に尽力した。とくに三島家の史料整理や研究を熱心に行っており、その成果を『三島弥太郎の手紙』（学生社、平成六年）等にまとめた。平成二十二年（二〇〇九）五月一二日満九四歳で逝去。

●三島昌子 みしまあきこ（一九二〇〜）

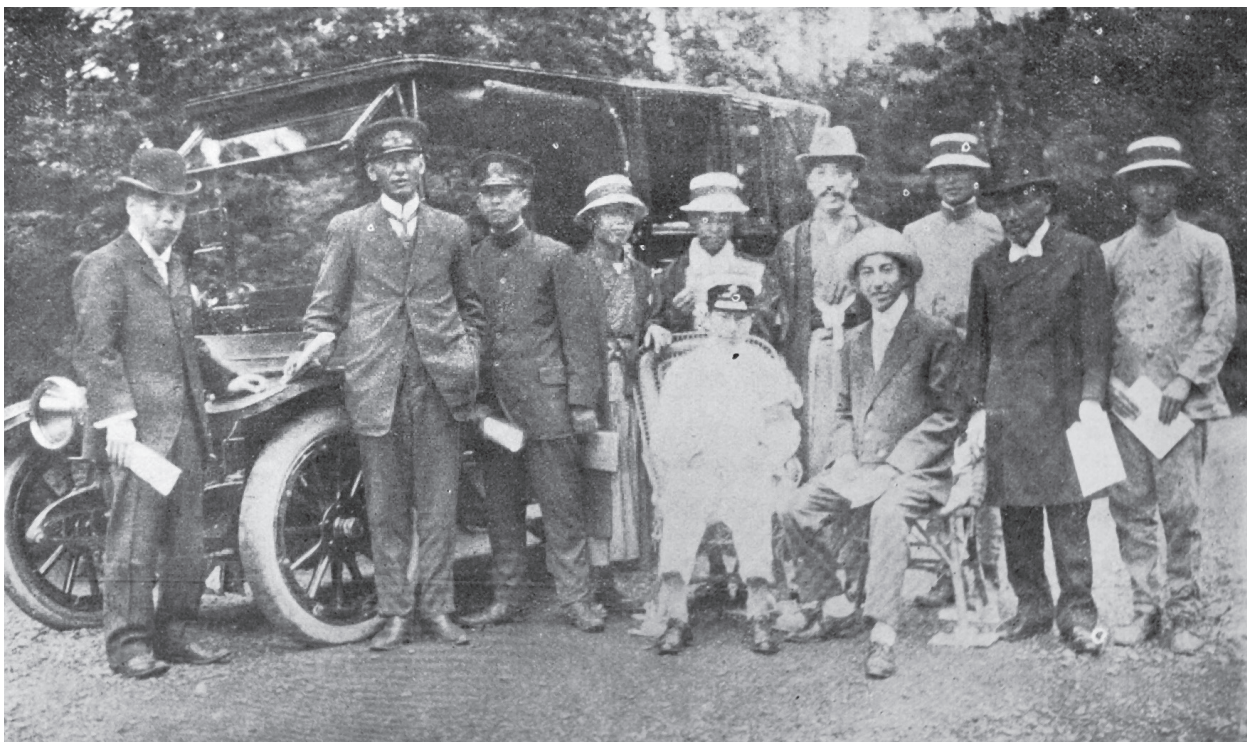
大正十一年（一九二〇）一月二〇日、東京千駄ヶ谷に於いて三島通陽と純の長女として生まれる。昭和二年（一九二七）女子学習院に入学。昭和十三年に女子学習院本科を修了。昭和十七年一月に三島義温と結婚する。母の純とともにガールスカウト活動に従事し、ガールスカウト日本連盟会長も務める。三島家に残る資料の整理を精力的に行っており、往年の三島家を伝える活動は尚友倶楽部刊行書籍の内容充実に貢献している。

五、資料紹介

●三光 [1-5・10・11・12・13・14・15] 【梅田・那須口絵1・2】

『三光』は大正元年（一九二二）一月一日から同六年七月二五日まで刊行されていた文芸雑誌である。三島通陽を会長兼編集長に据えた三光会を三島邸内に置き、編集・発行していた【図2】。

『三光』発刊に至るまでも通陽はいくつかの雑誌を出しており、その経緯は『三光と自分』（『三光』第六卷第四号掲載、大正六年七月二五日発行）に詳述される。九、一〇歳のころには『MM新聞』という複写紙を綴ったものを弟妹や近所の子供に配布していた。また同時期に『輔仁会雑誌』に自身の文章が載り、自らの著述が活字となることの喜びを覚えたこの時期を『三光』の興りとして回想している。明治四三年（一九一〇）に大磯小学校に入学したときには謄写版を買ってもらい、友人らと『チェリー』を月に二回発行していた。学習院中等科入学後は土方久敬と雑誌『山水』を発行していたが、これは毎月一回の発行を四、五回でやめたという。その後、再び『チェリー』と題した回覧雑誌を出していたが、中等科二年の頃に活版雑誌の発行を欲し、自宅に発行所を設け、『チェリー』を改めて『三光』



【図2】 資料番号 [1-10] 『三光 合本』所収『三光』第三卷第一号掲載より 三光会幹部集合写真
前列の椅子に腰掛けている2名が三島通陽編輯長（右）と三島通隆幹事（左）

と題した。

当館所蔵の『三光』は「1-13」を除いて、製本された状態であり、号数の重複を含めて七〇冊、三七巻分を収録している。なお、第四巻八号の収録は確認できていない。また、「1-13」は本文の天・小口が未裁断の状態であり、三島章道「十日の紀行記」に大量の赤入れがある。この文章は「九州まで」と朱書きで改題し、精力的に校正されているが、該当文章を採録した書籍・雑誌は確認できていない。

一冊の法量は、「1-13」を参照すると表紙が縦二三・二センチ横一五・二センチであり、菊判の雑誌である。表紙は刊行時期により画や写真が採用されたりとバリエーションが豊富であるが、十ヶ月の休刊を経て刊行した第三巻第一号の表紙に描かれた長原止水の画は、その後も裏表紙に掲載されつづけ、『三光』を表すトレードマークであった【梅田・那須口絵2】。「三光」の題は日・月・星の三つの光るものと三島の「三」の字をかけて名付けたものであり、長原止水の画も三角の図形の中央に太陽が照り、さらに左右の角にはそれぞれ星と月が輝いている様子を描いている。主宰を担っていた通陽は『三光』の中で精力的に作品を発表している。初期は章道ではなく主に「錦峰（きんぽう）」⁽²⁷⁾の筆名を用いており、『三光』で章道が用いられるのは第三巻第一号（大正三年七月一日発刊）掲載の「最初の田園生活」からになる。⁽²⁸⁾『三光』初出の作品も多く、『愛の雫』に関しては「『愛の雫』出版について」⁽²⁹⁾で「中にある文は皆Oさんと私の（二）をのぞく他は皆一度三光に出したものに、ずいぶん真赤になる程なほしましたものです。錦華鳥。ふかみどり。叔母の話（愛の雫改題）。櫻桃鳥。Oさんと私（Tさんと私改題）。夜。毒母。感想等で附録は、途中までですが万葉集の訳を入れました。これ等の文は大正四年一月から今日に到るまでの間に書いたものです。」と述べている。『愛の雫』自序でも収録作品の多くは『三光』からの再録であることには触れているが、『三光』とあわせて読むことで通陽の創作活動初期の作品をうかがうことができるだろう。

また、『三光』には通陽のみならず、以前から雑誌刊行をともにし最初

期より三光会会員に見える土方久敬のほか、近衛秀磨や実吉捷郎が参加しており、のちに通陽も携わる友達座の中心メンバーの創作活動の場となっていた。⁽³⁰⁾一方で、『三光』は第四巻第一号の表紙以降、有島生馬作「天使」をたびたび用いており【梅田・那須口絵2】、さらに同号以降は武者小路実篤や木下利玄といった白樺派の作家の作品も掲載されるようになる。

通陽は武者小路実篤ら白樺派よりも学習院での学年は下がるが、通陽叔父・弥吉が武者小路実篤と同窓であったことなどから交流があったように、通陽自身も『白樺』第一三年一〇月号（大正二年一〇月一日発刊）に「喧嘩」を寄稿している。三島家史料には通陽と武者小路実篤の交流がわかるものとして、他にも「1-16」の「新しき村」のフィルムがある【図3】。「新しき村」は武者小路実篤らを中心としてトルストイの人道主義の実践を目標に大正七年一月に宮崎県に開村した。しかし、ダム工事による農地水没をうけ昭和十三年（一九三九）に埼玉県に一部移動した。本資料



【図3】 資料番号 [1-16] 「新しき村フィルム」より
新しき村にて武者小路実篤（左）と談笑する三島通陽（右）

は通陽自身が大正一年に「新しき村」を訪れて撮影したフィルムの複製である。内容は村での生活や同村の創立記念祭の様子を映しており、「新しき村」を映像として記録している貴重な資料でもある。⁽³¹⁾

●大正大礼の際の女学部献上品に関する資料〔2-22〕26〕

三島純閔連資料は、純がまだ三島家に嫁ぐ以前である学習院女学部在学時の資料が割合の多くをしめる。その中に「大礼奉賀献上写真帖」〔2-22〕【梅田・那須口絵3】がある。

本資料は縦二七・二センチ横三七・七センチ、茶色の表紙の中央に題箋が貼られ「大礼奉賀献上写真帖」と記されており、本紙は二四枚ある。写真は全二八枚あり、全体の構成は、巻頭の「御在学皇族の写真」から始まり、女学部と幼稚園の校舎や運動場などの諸施設、学生・教職員の集合写真、授業風景などが続く。奥付等はないが、裏表紙の見返しに「九段坂檀上写真館」のスタンプがあるため、制作を担ったのは、九段坂に写真館を構える檀上新吉であるとわかる。また『女子学習院五十年史』には以下のような記述がある。

本女学部にてはこれより先、教授松本源太郎に即位式・大嘗祭の講話を行わしめ、又奉祝のため御品を献上することとし、委員を定めてこれが謹製に当り、十一月五日奉献の手續を了したり。

一、画蝶金屏風 二雙（索引付）
小学科以上の謹写にかゝる蝶の画を金屏風に貼りて謹製したるもの。

一、大礼奉祝和歌帖 一冊（作者名簿付）
中学科第五学年及び専修科学生の作歌を金屏風に貼りて謹製して帖としたるもの。

一、図画手工帖 一冊
幼児の謹作を帖としたるもの。

一、写真帖 五冊
校舎・校庭、授業の実際、職員学生幼児全体の写真二十八葉を帖として謹製せるもの。外に職員学生幼児の自署名簿を添へて奉献。



【図4】 資料番号〔2-28〕「大礼奉賀献上写真帖」11丁より抜粋
手前から3列目の後ろから2番目の席に座るの人物が松岡純

この「写真帖」が、「大札奉賀献上写真帖」である。同じく、大正四年（一九一五）に学習院が大正天皇への献上品として記念に制作した「大札奉獻学習院写真」という写真帖がある。この写真帖については『学習院大
学史料館紀要』第二七号⁽³⁾にて吉廣さやか氏が史料紹介を行っている。詳し
くは右を参照されたいが、巻頭に在学中の皇族学生の写真を擁し、続いて
高等科・中等科・初等科・女子部（幼稚園含む）の各学科の施設、学生・
教職員、全授業科目の様子の写真といった「大札奉賀献上写真帖」と同じ
構成になっている。

本資料は「大札奉獻学習院写真」と同様に大正大札を寿ぎ、皇族や華族
の教育機関としての学習院の様子を新天皇に報告する目的で、学習院女学
部にて制作されたとみられる。「大札奉獻学習院写真」という学習院全体
の写真帖に加えて、学習院女学部により制作された写真帖があることは大
変興味深く、どのような経緯をもって別立てで作られたのか詳しくは定
かではないが、学習院女学部の独自性がうかがえる。

三島家史料には、「大札奉賀献上写真帖」の原本の他に、後年のものと
みられる複製二冊「2-23・24」がある。この複製も銀の散らされた厚紙
に原本の題字が転写された凝ったつくりの表紙になっており、純がこの写
真帖をいかに大切なものとしていたか伝わってくる。複製には、純により
皇族や三島家関係の人々など、写っている人物に関するメモ書きの付箋が
数か所貼られ、多少の人物比定も可能となっている【図4】。

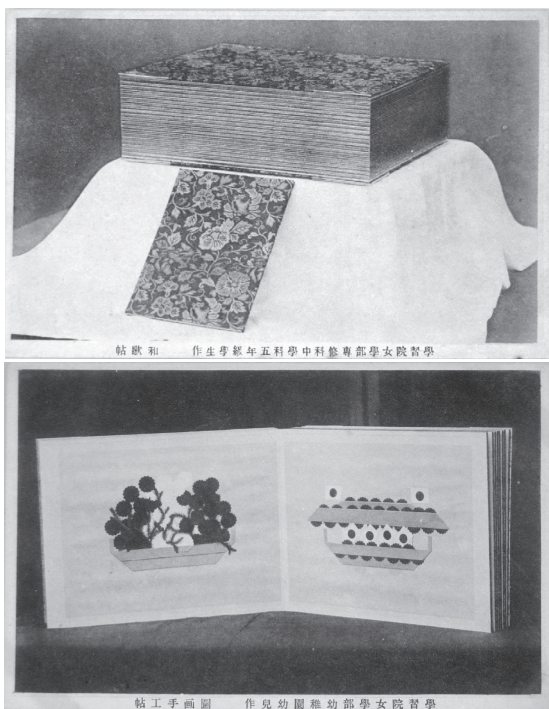
また「2-25・26」は、前掲した『女子学習院五十年史』の大正大札に
関する記述の中にある「画蝶金屏風」「大札奉祝和歌帖」「図画手工帖」と
いった写真帖とあわせて献上された品々の絵葉書である。「2-26」は「学
習院女学部専修科中学校五年級学生作 和歌帖」「学習院女学部幼稚園幼
児作 図画手工帖」の二枚であり、「2-25」は「学習院女学部専修科中学
科小学科学生作画蝶屏風」の写真絵葉書となっている【図5】。屏風の絵
葉書は一枚につき一隻の写真となっており、「画蝶屏風（右ノ天）」「画蝶
屏風（左ノ天）」「画蝶屏風（右ノ地）」「画蝶屏風（左ノ地）」の四枚一セツ
トである【梅田・那須口絵4】。この画蝶屏風に関しては大正四年九月

一六日朝日新聞朝刊に次の記載がある。

尚女学部にては女らしき優しき物にて生徒一般に行き渡るものをとの
計画にて過日來暑中休暇を利用し一人／＼付き蝶一匹を写生せしめた
れば是を衝立に仕立て全生徒の筆に成れる数百の蝶乱舞の絵を献上す
る事とし黒田清輝、岡野榮の両画伯其他監督の下に製作中なれば定め
し見事のものとなるべし尚学校としては目下銚衝中にして孰れ何等か
の記念計画を実現すること、なるべし

カラー刷りの絵葉書からは、金地の画面に様々な種類の蝶が舞う華やか
な六曲二双の屏風の様子がうかがえる。この蝶たちは暑中休暇の課題とし
て女学部全学生によって描かれたもので、女学部らしい優しいものを献上
したいという意図のもと、制作されたようである。

以上の資料たちは、学習院女学部における大正大札の際の献上品につい
て実像を知ることが出来る貴重な資料といえよう。



【図5】 資料番号 [2-26]
「学習院女学部専修科中学校五年級学生作 和歌帖」(上)
「学習院女学部幼稚園幼児作 図画手工帖」(下)

謝辞

多くの資料の保存に尽力しております三島家に敬意を払うと同時に、当館にご寄贈いただきました三島昌子氏・三島通文氏、あわせてご寄贈までにご配慮いただきました向山謹子氏には深く感謝申し上げます。

また、本稿執筆にあたり多くご協力・ご教示いただきました皆様にて感謝申し上げます。

金井忠夫・桑尾光太郎・坂本菜月・内藤一成・長佐古美奈子・松本裕之・水野勝之・吉廣さやか

(五十音順敬称略)

注釈

(1) 過去に紀要で公開した旧華族家資料目録は次の通りである。

長佐古美奈子・田中潤・西山直志・芳澤直之「旧華族家史料目録Ⅰ

富小路・岡部家・稲垣家・木越家史料目録」『学習院大学史料館紀要』

二二二号(平成二九年三月)

西山直志「旧華族家資料目録Ⅱ 立花種恭旧蔵史料目録」『学習院

大学史料館紀要』二四号(平成三〇年三月)

西山直志・田中潤・那須香織「旧華族家資料目録Ⅲ 福羽家資料目

録」『学習院大学史料館紀要』二七号(令和三年三月)

(2) 学習院大学史料館編『昭和会館創立八〇周年記念 男爵物語』(全

三巻・社団法人昭和会館発行・平成一九年九月)(なお、昭和会館

は現在社団法人から一般社団法人へとなっている)

向山謹子氏にご協力いただいた座談会は「第二巻 男爵の記憶」の

一五七頁から一九三頁に収録。

(3) 憲政資料室所蔵「三島通庸関係文書」については国立国会図書館参

考書誌部編『憲政資料目録第一一 三島通庸関係文書目録』(昭和

五二年一二月)が刊行されている。また、「三島通庸関係文書」[三

島弥太郎関係文書」ともに憲政資料室ホームページにおいて解説と目録が公開される。

(4) 「三島家文書」については、松本裕之「三島家文書の史料性と経営報告に関わる文書の様式及び構成について」(『那須野が原博物館紀要』第四巻一号・平成二〇年二月)に詳しい。

(5) 社団法人尚友倶楽部・季武嘉也編『尚友叢書一 三島弥太郎文書』(平成二三年一二月)

(6) 尚友倶楽部調査室編『憲政資料シリーズ尚友ブックレット第七号 柴山景綱事歴(抄)』(社団法人尚友倶楽部発行・平成九年四月)柴山景綱は三島和歌子の兄であり、幕末明治にかけて義弟・三島通庸

とともにその事跡事業に携わった。

(7) 尚友倶楽部調査室・内藤一成編『尚友ブックレット二二 三島和歌子覚書』(社団法人尚友倶楽部発行・芙蓉書房出版・平成二三年一二月)

(8) 尚友倶楽部史料調査室・内藤一成・長谷川怜編『尚友ブックレット三四 日本初のオリンピック代表選手三島弥彦 伝記と史料』(芙蓉書房出版発行・平成二二年一月)弥彦は三島通庸五男で第五回オ

リンピック・ストックホルム大会に日本から初めて陸上選手として参加した。

(9) 前掲(4) 松本論文

(10) 例として、三島通陽・松岡純の挙式に関わるもの(登録番号0101603「三島松岡兩家結婚披露献立」登録番号0101605「帝國ホテル・三島松岡兩家御祝宴明細」)、松岡純女子学習院在学時の暑中

課題の日記(登録番号0101703「日記帳」)などが確認できた。

(11) なお、同論文によると一回目の寄贈は昭和五二年七月となっている。また、二回目の寄贈については『SAJ NEWS 日本連盟ニュース』二九(平成二八年一二月一日刊行)によると二〇一六年一二月

二九日にボリースカウト日本連盟相談役の三島昌子氏より寄贈を受けたことがわかる。

- (12) 特に注釈が無い箇所については『遺稿集 三島通陽』（昭和五〇年一月）附録の「年譜」を参照した。
- (13) 三島通陽「わが青春記」『高校時代』三巻七号（昭和三十一年一〇月）（遺稿集 三島通陽 二七五頁収録）に「その日限り、私は学習院を中退し、それからは一に闘病、そして健康を築き上げること、二つには、小林先生等の指針を得て、しかし独学で次々と勝手な学問を選んで勉強したものだ。」とある。なお、『遺稿集 三島通陽』附録「年譜」では「卒業」となっている。
- (14) 読売新聞大正八年一月二三日朝刊「若子爵三島章道氏松岡博士令嬢と結婚 但し式は明春挙行」より。
- (15) 三島家文書（那須野が原博物館所蔵）登録番号0110202「三島弥太郎戸籍」より婚姻届は大正九年四月二日に提出。結婚式は前掲注(10)「三島松岡兩家結婚披露献立」より、同年三月一七日に行われていたことがわかる。（なお、読売新聞大正九年二月二九日朝刊「若子爵三島さんが二千坪の住宅地を中産階級の人々の為に開放」でも三月一七日に日比谷大神宮で挙式のうち帝国ホテルで披露宴の式が予定されていたことがわかる）
- (16) 内藤一成「大正デモクラシーと青年華族 三島通陽と劇団「友達座」を中心に」『近代日本研究』二九号（平成二四年）
- (17) 三島通陽「我々の青年会の事」『サンデー毎日』大正十一年五月（遺稿集 三島通陽 七二頁収録）
- (18) 特に注釈が無い箇所については三島家史料「2―62」を参照した。
- (19) 百寿者研究会（東京都老人総合研究所・慶應義塾大学医学部）編『百歳百話』（日東書院、平成一五年）、また前掲注(15)も参照。
- (20) 霞会館華族家系大成編輯委員会編『平成新修旧華族家系大成』（社団法人霞会館発行、吉川弘文館発売、平成八年）
- (21) 三島家史料「3―61」
- (22) 三島家史料「3―74」
- (23) 前掲注(15)「三島弥太郎戸籍」より。
- (24) 三島家は通陽他弟妹が生まれた麻布龍土町の住居から明治三六年に東京府下千駄ヶ谷に転居している。この時の三光会は千駄ヶ谷の三島本邸に置かれた。
- (25) 『輔仁会雑誌』第六九号（明治三九年六月）に初等学科四年級三島通陽「親兵式陪観記」が掲載される。また、これ以前にも『輔仁会雑誌』六四号（明治三七年一二月）に初等科二年級三島通陽「ウンドーカイ」も載る。
- (26) 「三光」の名称について、『三光』第一巻一号（大正元年一〇月一日）の通信欄で通陽自身は「愈チェリーを活版にして三光と、あらためました、三光とは日と月と星の三つの光るものを云ふのであります（後略）」と述べている。のちに『三光』第六巻第四号「三光と自分」では「（前略）「三光」のわけは別に無いやうなものだが、日月星の三つの偉大な光に対する敬愛と、三光の三の字が、三島の三の字と同じで懐かしかったので、三光としたらしい」と述べている。
- (27) 『三光』第一巻一号より通信欄に「諸君！錦峯とは三島通陽の事又錦園とは同通隆の事です」とある。
- (28) なお、章道以外にも「千駄ヶ谷の子」「みち坊」「たかし」などの筆名を用いていたことは『三光』第三巻第三号の通信欄からうかがえる。
- (29) 『三光』第五号第四巻（大正五年八月一五日）より編集室「『愛の雫』出版について」から一部抜粋。また、これ以前より通陽はたびたび『愛の雫』刊行の案内や編集状況を『三光』内で知らせている。
- (30) 前掲注(16) 内藤論文
- (31) 武者小路実篤「序文」三島章道『愛の雫』（大正六年・洛陽堂）
- (32) 本資料は保存状態の都合、映像を焼いたDVDでの閲覧にて対応する。
- (33) 『女子学習院五十年史』（昭和一〇年一月）
- (34) 吉廣さやか「皇太子殿下御卒業奉祝記念写真帖」と「大礼奉獻学習院写真」について「学習院大学史料館紀要」二七号（令和三年三月）

目録凡例

- 一、本目録は、学習院大学史料館所蔵「三島家史料」（台帳番号一六六）計二四五点の目録である。
- 一、編成は大きく人物別に「1、通陽」「2、純」「3、義温」「4、昌子」そして、三島家全体に関わるものや人物を比定できないものそれ以外は「5、その他」とした。分類内ごとに可能な限り年代順に資料を並べなおし番号を付している。
- 一、配列は原則年代順となっているが、年代不明であっても関係性がみいだせる資料に関しては該当箇所に適宜入れ込んでいる。
- 一、データを採用した項目は、「資料番号」「資料名」「和暦」「西暦」「月」「日」「作成」「宛名」「形態」「出版社（書籍・写真）」「備考（書き込み等）」で統一した。
- 一、旧字等は適宜常用の字に改めた。また判読不能な文字は「■」としている。
- 一、「資料名」における「」は採取者が資料内容より名称を付した。
- 一、「備考（書き込み等）」における「」内は資料中の語句を記載した。
- 一、閲覧に際しては、事前連絡を願いたい。

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	ペン皿		銘「自重互敬」「学習院創立八十五周年記念 能成」
	ペーパーナイフ		常磐会章／刻印「東京牧野 洋銀」／箱付「創立九十周年記念 常磐会」
	金工品		壁掛け／裏に紐あり／箱入
	写真		明治37年12月20日、柳樹房の第三軍司令部にて撮影／説明紙付
	写真		明治39年4月30日、東京青山練兵場にて撮影
	絵葉書	那須野乃木神社社務所発行	包紙「那須乃木神社／舊乃木別邸／絵葉書／社務所発行」／絵葉書3点「乃木希典將軍御像（社務所発行）」「乃木神社本殿（社務所発行）」「乃木神社正面二の鳥居（社務所発行）」
	絵葉書	那須野乃木神社社務所発行	包紙「御祭神御積邸絵葉書／懸社乃木神社社務所発行」／絵葉書2点「乃木神社祭神御在世中の御別邸全景」「御別邸内客間より奥居間を拝す」
	写真		2点／包紙
	一紙		コピー用紙に貼られている／上部に「産経新聞朝刊」とペンにて書き込みあり／封筒あり、三島通利差出三島純宛宛平成8年3月21日消印。この切抜送付の際のものカ
	一紙		三島弥太郎夫人加根子の墓誌「妻 加根子 明治七年八月朔日 昭和十一年十月三十日歿 侯爵四條隆調三女」
	筆筒		
	長持		
	染織		学習院女子で式典の際に着用／紫地
	染織		赤地に松、藤等の刺繍
	染織		同柄2点、木箱入／赤格子模様に笹、桜、牡丹
	染織		赤格子模様に笹、桜、牡丹／番号5-40と同様の柄
	染織		木箱入／金地に水仙／留め具に鼈甲使用
	染織		緑地に八藤紋
	染織		紫地に牡丹

旧華族家資料目録Ⅳ 三島家史料目録

資料番号		資料名	和暦	西暦	月	日	作成
5	26	〔学習院創立85周年記念ペン皿〕	昭和39	1964			
5	27	〔常磐会創立90周年記念ペーパーナイフ〕	昭和60	1985			
5	28	明治天皇御聖像	昭和期				
5	29	〔旅順に於ける乃木、東郷両軍神〕	昭和期				
5	30	〔戦役凱旋観兵式〕	昭和期				
5	31	〔絵葉書一括〕	昭和期				
5	32	〔絵葉書一括〕	昭和期				
5	33	〔ガール・スカウト集合写真〕	昭和期				
5	34	〔産経新聞 平成8年3月16日朝刊切抜「秘話で綴る日本五輪史4 スーパーマン三島弥彦」〕	平成8	1996	3	16	
5	35	〔三島加根子墓誌拓本〕					
5	36	筆筒					
5	37	長持					
5	38	紋付					
5	39	〔紙入れ〕					
5	40	〔紙入れ〕					三越
5	41	〔紙入れ〕					
5	42	〔紙入れ〕					近江屋松本政六商店
5	43	〔紙入れ〕					
5	44	〔紙入れ〕					

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	写真		大判／四谷校地にて撮影
	写真	大日本帝国北海道札幌出張写真所東京一番町 武林盛一	大判／四谷校地にて撮影カ
	写真	東京江木 YEGHI-SHOTEN PHOTOGRAPHIC 本店 神田淡路町 支店 新橋丸屋町	大判／四谷校地にて撮影カ
	写真	武林写真館	大判／目白校舎正堂前にて撮影
	写真	東京麹町区一番町 武林 Takebayashi KŌJIMACHIKU Tokyo	大判
	写真	K.Ogawa Tokio Japan	大判
	写真	沼津吉原鈴木 J.Suzuki	大判
	写真	K.Ogawa TOKIO JAPAN	大判
	写真	K.Ogawa TOKIO JAPAN	大判
	写真	鈴木真一 東京九段坂 横浜真砂町	大判
	写真	写真師 丸木利陽 東京 芝新シ橋角	大判
	写真	丸木利陽 写真師 東京 芝新シ橋角	大判
	アルバム		表紙付箋「この中に学習院運動会の写真有」／本紙に付箋多数
	絵葉書		4点、うち3点記念絵葉書、1点集合写真／メモ「跡見女学校絵葉書」
	状	兵林館	兵林館編『軍事画報』1巻9号より乃木希典に関する記事が掲載されている3～26ページを抜粋（12枚）
	折本	H.Igaya	
	写真	東京九段壇上写真館主 壇上新吉	大判／鉛筆裏書「学習院輔仁会」／学習院目白校舎正堂内にて撮影／「大札奉獻学習院写真」に同一写真掲載
	写真	東京九段壇上写真館主 壇上新吉	大判／鉛筆裏書「学習院卒業式」／学習院目白校舎正堂前にて撮影／「大札奉獻学習院写真」に同一写真掲載
	写真	東京九段壇上写真館主 壇上新吉	大判／鉛筆裏書「学習院運動会」／「大札奉獻学習院写真」に「深呼吸」という題の同一写真掲載
	写真	東京市麹町区一番町 武林写真館	大判／付箋「前列左より三人目」／目白校舎正堂前にて撮影／三島通隆カ
	写真	YAMAMOTO 山本誠陽 大日本東京神田区役所前 支店 清国北京及ビ天津	大判／目白校舎正堂前にて撮影
	折本		明治天皇大喪と乃木希典・静子に関する絵葉書45点収録（15枚脱漏）／裏表紙脱落
	写真		「明治38年7月26日撮影 昭和10年4月5日発行 東京日日新聞 第21074号地方版付録 日露戦勝30周年記念」
	冊		

資料番号		資料名	和暦	西暦	月	日	作成
5	2	〔学習院初等科・中等科・高等科集合写真〕	明治41以前				
5	3	〔学習院中等科集合写真〕	明治41以前				
5	4	〔学習院初等科・中等科集合写真〕	明治41以前				
5	5	〔学習院初等科集合写真〕	明治41以降				
5	6	〔片瀬游泳場集合写真〕	明治41	1908	7		
5	7	〔沼津游泳場集合写真〕					
5	8	〔沼津游泳場集合写真〕					
5	9	〔桃夭女学校カ生徒・母親等写真〕	明治期				
5	10	〔桃夭女学校カ生徒・母親等写真〕	明治期				
5	11	〔桃夭女学校カ生徒集合写真〕	明治期				
5	12	〔桃夭女学校カ記念写真〕	明治期				
5	13	〔桃夭女学校カ催し物時集合写真〕	明治期				
5	14	〔三島家アルバム〕	明治～大正期				
5	15	〔絵葉書一括〕	明治～大正期				
5	16	〔軍事画報第1巻9号 抜粋〕	大正元	1912			
5	17	〔写真帖 乃木希典・静子葬列〕	大正元	1912			
5	18	〔輔仁会大会写真〕	大正3頃	1914			
5	19	〔学習院職員学生集合写真〕	大正3頃	1914			
5	20	〔学習院女学部専修科及中等科写真〕	大正3頃	1914			
5	21	〔学習院中等科集合写真〕	大正期				
5	22	〔学習院高等科集合写真〕	大正期				
5	23	絵葉書帖	大正期				
5	24	〔奉天城内八将軍の会合〕	昭和10	1935	4	5	東京日日新聞
5	25	体操会演習次第	昭和13	1938	5	19	女子学習院

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
三島昌子	状		中期一年春
女子学習院本科中期第一学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
三島昌子	状		「修了証 三島昌子 第拾一期薙刀術講習修了之証」／朱印「常磐会」
女子学習院本科中期第一学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
三島昌子	状		「中期二年春」
女子学習院本科中期第二学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
女子学習院本科中期第三学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
	一紙	内閣印刷局	台紙付／昭和9年5月28日下賜、昭和9年12月20日複製を頒布／内閣印刷局複製、女子学習院頒布／裏書「女子学習院複製八百四十四枚ノ内第七三一号」／付紙「昭和九年五月二十八日下賜されたる 皇太后陛下御歌「月の桂」の御色紙を内閣印刷局に委嘱して八百四十四枚を複製し毎葉番号を附して職員学生に頒布す仍厳に複写贈与貸与を禁ず 昭和九年十二月二十日 女子学習院」
	色紙		貼紙「皇后陛下のお歌 三島昌子書 女子学習院で頂戴しました」／疎開児童のうへを思ひては、昭和19年12月23日に疎開学童へ下賜されたビスケットに付された御歌
	一紙		ペン書き／「つきの世を背負ふへき身そたくましくたゞしく伸びよ里にうつりて」／資料番号4-22は同御歌の色紙
女子学習院本科中期第三学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
	写真		昭和10年11月18日撮影／女子学習院開校50年記念体操会（於明治神宮外苑球場）での集合写真
	写真		資料番号4-25と同一
女子学習院本科中期第四学年春組 三島昌子	状		「主管 長瀬」
	写真		裏書「昌子」
女子学習院本科後期第二学年春組 三島昌子	状		封筒付、女子学習院封筒「三島昌子保証人殿」／「主管中村」／主管は中村ひて
三島昌子	状		「後期三年春」
	冊		はなすみれ楽譜（貞明皇后御歌、信時潔作曲）／「はなすみれ」は大正12年6月19日に女子学習院へ貞明皇后より下賜
女子学習院本科後期第三学年春組 三島昌子	状		「主管 中村」／主管は中村ひて
女子学習院本科後期第三学年春組 三島昌子	状		「主管 中村」／主管は中村ひて
	文鎮		八稜鏡形／銘「孝順 貞勤 慈愛 華族会館」／箱付蓋表に華族会館章あり／蓋裏「昭和十三年三月卒業記念 華族会館」
	状		「第五十一回春組卒業後十周年記念午餐会」

	写真	写真師鈴木製	大判／四谷校地にて撮影
--	----	--------	-------------

資料番号		資料名	和暦	西暦	月	日	作成
4	14	身体検査票	昭和6	1931	4	23	
4	15	昭和六年度春学期教課成績表	昭和6	1931			
4	16	修了証（薙刀術講習）	昭和7	1932	3	16	常磐会
4	17	昭和六年度秋学期教課成績表	昭和7	1932			
4	18	身体検査票	昭和7	1932	4	22	
4	19	昭和七年度春学期教課成績表	昭和7	1932			
4	20	昭和八年度春学期教課成績表	昭和8	1933			
4	21	皇太后陛下御歌	昭和9	1934	12	20	女子学習院
4	22	皇后宮御歌 疎開児童のうへを思ひて	昭和期				
4	23	〔皇后宮御歌疎開児童のうへを思ひて覚書〕	昭和期				
4	24	昭和八年度秋学期教課成績表	昭和9	1934			
4	25	〔女子学習院集合写真〕	昭和10	1935	11	18	
4	26	〔女子学習院集合写真〕	昭和10	1935	11	18	
4	27	昭和九年度秋学期成績通知表	昭和10	1935			
4	28	〔女子学習院生比叡艦上集合写真〕	昭和11	1936	5	10	
4	29	昭和十一年度春学期女子学習院成績通知表	昭和11	1936			
4	30	身体検査票	昭和12	1937	5	8	
4	31	はなすみれ	昭和12	1937	6	25	女子学習院
4	32	昭和十二年度春学期成績通知表	昭和12	1937			
4	33	昭和十二年度秋学期成績通知表	昭和13	1938			
4	34	〔華族会館卒業記念文鎮〕	昭和13	1938	3		華族会館
4	35	〔第51回春組卒業50周年記念午餐会メニュー〕	昭和63	1988	4	15	

●その他

5	1	〔学習院中等科・高等科集合写真〕	明治41以前				
---	---	------------------	--------	--	--	--	--

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	テープ		義温の独唱をテープへ再録したもの（薔薇ノ花・秋／騎馬旅行）／昭和2年録音カ、昭和56年8月13日再録／テープに関する来歴の詳細メモあり
	綴		平田義温の書いた作文5つが綴りになっている／封筒入、封筒「昭和二年三月学習院初等科を卒業した平田義温（現・三島義温）の卒業記念アルバムと教学聖君、輔仁会誌への作文原稿併せて三点を今回寄贈致します。」
	冊		昭和元年の勅語が挟み込まれている／帙入／刺繍「ヒラタ」「平田」とある袱紗に二重に包まれている
	バッジ	ヤマト徽章商会 東京市 麹町区飯田町四丁目	銘「第三級日本体育連盟競技章」／箱あり／箱表印刷「第参級競技章 日本体育連盟」ペン書「平田義温 昭和二年」
	メダル		銘表「ATHLETIC」裏「東京高校 体育デー 1928」／箱書「賞 学習院初等科」「大正十五年 秋季運動会 徒競走 三等」／箱と中身相違
平田義温	葉紙		「恭賀新年」
	メダル	森洋行 奉大新哈天北遼	刻印表「紀念」裏「中華民國二十八年 中華民國臨時政府成立二周年紀念 十二月十四日」／中華民國28年は昭和14年／箱・包紙あり／箱表「中華民國臨時政府成立二周年紀念章」
	バッジ		銘「皇太子殿下御成婚記念章」／箱表「皇太子殿下御成婚記念 褒章記念章」
	文鎮		八陵型紅葉柄／木箱あり
	状		平成21年7月4日実施三島義温お別れの会に関する資料／「幼少期」「学習院初等科」の項目／A4コピー用紙

三島昌子	状		「三島昌子保証人殿」宛女子学習院封筒2通付／前期一年春
女子学習院本科前期第一学年春組 三島昌子	状		「三島昌子保証人殿」宛女子学習院封筒付／「第一学年春組成績表」が挟み込まれている／「主管 奥■」
女子学習院本科前期第一学年春組 三島昌子	状		「第一学年春組秋学期成績」が挟み込まれている／「主管 奥■」
三島昌子	状		「前期二年春」
女子学習院本科前期第二学年春組 三島昌子	状		「第二学年春組春学期成績表」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
女子学習院本科前期第二学年春組 三島昌子	状		「第二学年春組秋学期成績」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
三島昌子	状		「前期三年春」
女子学習院本科前期第三学年春組 三島昌子	状		「前期第三学年春組春学期成績」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
女子学習院本科前期第三学年春組 三島昌子	状		「前期第三学年春組秋学期成績」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
三島昌子	状		「前期四年春」
女子学習院本科前期第四学年春組 三島昌子	状		「第四学年春組春学期成績」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
女子学習院本科前期第四学年春組 三島昌子	状		「前期第四学年春組成績」が挟み込まれている／「主管 内山」／主管は内山チヨ
三島昌子	状		「三島昌子 本科前期課程修了ヲ証ス」／朱印「女子学習院」

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
3 65	〔義温初等科卒業記念吹込レコードのテープ〕	(昭和2)				
3 66	〔作文原稿綴〕					平田義温
3 67	教学聖訓	昭和元以降				学習院
3 68	〔第3級日本体育連盟競技章バッヂ〕	昭和2	1927			
3 69	〔東京高校体育デーメダル〕	昭和3	1928			
3 70	〔平田義温宛近衛文隆年賀状〕	昭和5	1930	1	1	近衛文隆
3 71	〔中華民国臨時政府成立2周年記念章〕	中華民国28	1939	12	14	
3 72	皇太子殿下御成婚記念記念章					
3 73	〔文鎮〕					
3 74	〔三島さん思いでパネル原稿〕	平成21	2009			

●三島昌子

4 1	身体検査票	昭和2	1927	4	28	
4 2	昭和二年度春学期教課成績表	昭和2	1927			
4 3	昭和二年度秋学期教課成績表	昭和3	1928			
4 4	身体検査票	昭和3	1928	4	27	
4 5	昭和三年度春学期教課成績表	昭和3	1928			
4 6	昭和三年度秋学期教課成績表	昭和4	1929			
4 7	身体検査票	昭和4	1929	4	15	
4 8	昭和四年度春学期教課成績表	昭和4	1929			
4 9	昭和四年度秋学期教課成績表	昭和5	1930			
4 10	身体検査票	昭和5	1930	4	15	
4 11	昭和五年度春学期教課成績表	昭和5	1930			
4 12	昭和五年度秋学期教課成績表	昭和6	1931			
4 13	〔修了証書（本科前期課程）〕	昭和6	1931	3	31	女子学習院

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙		ペン書「六年東 平田義温」
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「六年東 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
初等科第六学年東組 平田義温	冊		初等科第六学年の際の通信簿（大正15年4月～昭和2年5月）／主管は岡崎常太郎
	状		2点
平田義温	状		「初等科卒業之証」／黒印「学習院」
	状		2点／浅野忠允、平田義温、相澤達也ら11人に鉛筆で「✓」が付されている／身長順に列記
初等科第六学年学生 平田義温	状		「本学年成績優等ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／黒印「学習院」
初等科第六学年学生 平田義温	状		「品行方正学業優等ニ付華族会館寄贈ノ賞牌ヲ授与ス」
	状		義温初等科卒業時のもの／3点、内1点破損
	状		昭和2年3月29日学習院卒業証書授与式次第書の拡大コピー 2点
	状		昭和2年3月29日学習院卒業証書授与式の謝辞下書きのコピー／「初等科卒業学生総代 平田義温」
	写真		裏面に人物名に関する付箋あり
	冊	銀座玉翠館	表紙「昭和貳年三月卒業記念学習院初等科」／写真アルバム
	状		資料番号3-63のコピー（7枚）／書込あり

資料番号		資料名	和暦	西暦	月	日	作成
3	43	模型白地図 北海道地方	大正15～昭和2	1926～1927			
3	44	模型白地図 樺太地方	大正15～昭和2	1926～1927			
3	45	模型白地図 朝鮮地方	大正15～昭和2	1926～1927			
3	46	模型白地図 台湾地方	大正15～昭和2	1926～1927			
3	47	模型白地図 アジヤ洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	48	模型白地図 大洋洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	49	模型白地図 ヨーロッパ洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	50	模型白地図 アフリカ洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	51	模型白地図 北アメリカ洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	52	模型白地図 南アメリカ洲	大正15～昭和2	1926～1927			
3	53	通信簿	昭和2	1927			学習院
3	54	学習院学生現在数及学年末成績一覧表	昭和2	1927	3		
3	55	〔卒業証書（小等科）〕	昭和2	1927	3	31	学習院
3	56	学習院各科卒業生一覧表	昭和2	1927	3		
3	57	褒状	昭和2	1927	3	31	学習院
3	58	〔華族会館寄贈賞牌授与証〕	昭和2	1927	3	31	学習院
3	59	学習院受賞学生一覧表	昭和2	1927	3		
3	60	〔学習院卒業証書授与式次第書コピー〕					
3	61	〔学習院初等科卒業式謝辞下書コピー〕					
3	62	〔学習院初等科卒業写真〕	昭和2	1927			
3	63	昭和三年三月卒業記念学習院初等科	昭和2	1927	3		学習院初等科
3	64	〔卒業記念学習院初等科アルバムコピー〕					

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	メダル		刻印表「学習院 切磋琢磨」裏「華族会館賞牌 大正十四年初等科第四学年平田義温ニ授与ス」／木箱あり
	メダル	日東徽章製作所 東京牛込区柳町三番地	刻印「侍従御差遣記念学習院游泳二五八五」／箱あり／箱表「大正十四年夏 沼津に於ける游泳記念一級」
	綴		游泳日誌等が掲載／表紙、裏表紙に「平田義温」とあり
	綴		12月22日～31日までの日記
	綴		義温第5学年の際の綴方／義温は欠とあり、冊子中に義温の作文はなし／書込あり／封筒あり、封筒「三島義温君寄贈 初等科五年在学当時の自作自筆「綴方の友」」
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「五年北 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月21日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「五年北 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月21日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「五年北 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「五年北 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月20日発行
	一紙	著作者兼発行者 前川一郎 東京市神田区昌平河岸／発行所 学海指針社	ペン書「五年北 平田義温」／裏面印あり／大正9年12月21日発行
初等科第五学年北組 平田義温	冊		初等科第五学年の際の通信簿（大正14年4月～大正15年4月）／主管は岡崎常太郎
平田義温	状		「初等科第五学年修了之証」／朱印「学習院」
初等科第五学年学生 平田義温	状		「本学年成績優等ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／朱印「学習院」
初等科第五学年学生 平田義温	状		「品行方正学業優等ニ付華族会館寄贈ノ賞牌ヲ授与ス」
	状		4点／義温第5学年／「学習院卒業証書授与式次第」「学習院受賞学生一覧表」「学習院学生現在数及学年末成績一覧表」「学習院各科卒業生一覧表」
	綴		東郷平八郎の事跡についてまとめた綴
	綴		赤字等による添削多数／資料番号3-39よれば、この年の輔仁会秋季大会にて「富士山の話」という題で参加／資料番号3-41にも「富士山」という題の原稿があり本資料と関連
	冊		輔仁会秋季大会のパンフレット／「午前之部」「10.お話 富士山の話 初六東平田義温」とあり／資料番号3-40の馬事展覧会についての記載あり
	冊		資料番号3-39と関連あり
	冊	学習院初等科幼年図書館	表紙、裏表紙剥離
	状		資料番号3-41のコピー（17枚）／義温（第6学年）の作成した短歌・作文が掲載された箇所を複写したもの

旧華族家資料目録Ⅳ 三島家史料目録

資料番号		資料名	和暦	西暦	月	日	作成
3	22	華族会館賞牌	大正14	1925			
3	23	〔学習院游泳侍従御差遣記念メダル〕	大正14	1925			
3	24	静浦	大正14	1925			
3	25	スキー日記の中から	大正14	1925	12		
3	26	自作自筆綴方乃友	大正14～15	1925～1926			
3	27	模型白地図 奥羽地方	大正14～15	1925～1926			
3	28	模型白地図 関東地方	大正14～15	1925～1926			
3	29	模型白地図 中部地方	大正14～15	1925～1926			
3	30	模型白地図 近畿地方	大正14～15	1925～1926			
3	31	模型白地図 中国四国地方	大正14～15	1925～1926			
3	32	通信簿	大正15	1926			学習院
3	33	〔修了証書〕	大正15	1926	3	31	学習院
3	34	褒状	大正15	1926	3	31	学習院
3	35	〔華族会館寄贈賞牌授与証〕	大正15	1926	3	31	学習院
3	36	〔学習院卒業式関係書類一括〕	大正15	1926	3	29	学習院
3	37	東郷大将	大正15	1926			六年東 平田義温
3	38	富士山の研究	大正15	1926			六年東 平田義温
3	39	輔仁会秋季大会順序書	大正15	1926	10	17	
3	40	馬事展覧会出品表	大正15	1926	10	17	学習院馬術部
3	41	小ざくら 第一号	大正15	1926	11	27	
3	42	〔小ざくら第1号コピー〕					

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
三島純殿	状		日本ガール・スカウト運動の発展奉仕に対して55年の永続奉仕章受贈
	綴		6枚／「三島純 経歴を添付の句集2冊と白寿祝末尾の系図などから作成。不備な点もございますが何卒ご参考に共して下さいませ」

	写真	GOLDEN HALL SHIBUYA ゴールデンホール写真室	台帳付／写真の来歴や被写体である平田一家の名前を記したメモ等が添付される
	メダル	アキバ徽章商会 東京九段下	銘「学習院初等科運動会 大正十一年」／木箱・包紙あり／箱表「大正十一年初等科運動会徒競走二等」
	綴		夏季休暇中の宿題の指示、および問題集／「第三学年北組 平田義温」
	綴		大正12年9月1日の関東大震災での被災経験を記載／朱印「岡崎」
	一紙		鉛筆裏面「三年北平田義温」／付紙「震災で崩れた浅草十二階建物の様子と思われる 三年在学中の工作額ぶち製作」／義温が小等科3年在学中に工作で製作した額縁／額縁には関東大震災で倒壊した浅草凌雲閣の写真が入っている
初等科第三学年北組 平田義温	冊		初等科第3学年の際の通信簿（大正12年4月～大正13年3月）／主管は岡崎常太郎
平田義温	状		「初等科第三学年修了之証」／朱印「学習院」
初等科第三学年学生 平田義温	状		「本学年間無欠席ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／朱印「学習院」
初等科第三学年学生 平田義温	状		「本学年成績優等ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／朱印「学習院」
初等科第三学年学生 平田義温	状		「品行方正学業優等ニ付華族会館寄贈ノ賞牌ヲ授与ス」
	メダル		刻印表「学習院 切磋琢磨」裏「華族会館賞牌 大正十三年初等科第三学年平田義温ニ授与ス」／木箱あり（一部破損）
	状		義温 初等科第3学年／「褒状、無缺、賞牌 平田義温」
	メダル	鶴澤商店 神田西小川町二ノ五	刻印表「SWIMMING」裏「学習院游泳侍従御差遣記念二五八四」／箱あり／箱表「大正十三年夏 沼津に於ける游泳記念二級」
	綴		夏季休暇中の宿題の指示および問題／「第四学年北組 平田義温」
	メダル	アキバ徽章商会 東京九段下	銘「賞」大正十三年十月学習院初等科運動会」／木箱・包紙あり／箱表「大正十三年十月十三日徒競走二等賞平田義温」
	メダル	日東徽章製造所 東京牛込区柳町三番地	銘「VICTORY」学習院輔仁会陸上運動大会1924」／木箱あり／箱表「大正十三年本院運動会徒競走一等」
初等科第四学年北組 平田義温	冊		初等科第4学年の際の通信簿（大正13年4月～大正14年3月）／主管は岡崎常太郎
平田義温	状		「初等科第四学年修了之証」／朱印「学習院」
初等科第四学年学生 平田義温	状		「本学年間無欠席ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／朱印「学習院」
初等科第四学年学生 平田義温	状		「本学年成績優等ナルニ由リ之ヲ表彰ス」／朱印「学習院」
初等科第四学年学生 平田義温	状		「品行方正学業優等ニ付華族会館寄贈ノ賞牌ヲ授与ス」

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
2 61	表彰状	平成18	2006	3	31	社団法人ガールスカウト 日本連盟東京都支部支部長 下澤夫美子
2 62	〔三島純履歴〕	平成19	2007			

●三島（平田）義温

3 1	〔平田東助像除幕式写真〕	大正10頃	1921			
3 2	〔学習院初等科運動会徒競走メダル〕	大正11	1922			
3 3	夏休宿題	大正12	1923			
3 4	大地震の綴方	大正12	1923			三年北 平田義温
3 5	〔工作額縁〕	大正12	1923			三年北 平田義温
3 6	通信簿	大正13	1924			学習院
3 7	〔修了証書〕	大正13	1924	3	31	学習院
3 8	〔表彰状〕	大正13	1924	3	31	学習院
3 9	褒状	大正13	1924	3	31	学習院
3 10	〔華族会館寄贈賞牌授与証〕	大正13	1924	3	31	学習院
3 11	華族会館賞牌	大正13	1924			
3 12	学習院受賞学生一覧表	大正13	1924	3		
3 13	〔学習院游泳侍従御差遣記念メダル〕	大正13	1924			
3 14	夏休宿題	大正13	1924			
3 15	〔学習院初等科運動会徒競走メダル〕	大正13	1924	10	13	
3 16	〔学習院輔仁会陸上運動大会メダル〕	大正13	1924			
3 17	通信簿	大正14	1925			学習院
3 18	〔修了証書〕	大正14	1925	3	31	学習院
3 19	〔表彰状〕	大正14	1925	3	31	学習院
3 20	褒状	大正14	1925	3	31	学習院
3 21	〔華族会館寄贈賞牌授与証〕	大正14	1925	3	31	学習院

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
松岡純	卷子		卷子／題簽「中学科卒業証」／「中学科卒業之証」／朱印「女子学習院」 緑割印「契」
	写真		2点／台紙付／資料番号2-40と同日に撮影カ／大迫尚敬院長他教職員と学生が写る
	写真		台紙付／資料番号2-39と同日に撮影カ／学生のみ写る
	写真		資料番号2-39・2-40のコピー（2点）／付箋「安子女王」「方子女王」 「松岡純／三島純」「三島梅子 土方梅子」／メモ同封
	写真		2点／資料番号2-39・2-40のコピー
	写真	東京九段 檀上写真館主檀 上新吉 電話番町（三四一） S.DANJO Kudan, Tokyo. TELEPHONE Bancho-341	台紙付／裏書「大正八年中等科卒業式 幼稚園出身者」「め598」
	写真	東京九段 檀上写真館主檀 上新吉 電話番町（三四一） S.DANJO Kudan, Tokyo. TELEPHONE Bancho-341	台紙付／裏面スタンプ「2841」
	一紙		薔薇の水彩画
	一紙		植物の水彩画／裏書あり
	一紙		「一滴の水も聚れば…」
	一紙		「徳器成就公益世務」
	一紙		「らむ且多年御蛩雪の光り…」（2枚）
	一紙		「慶賀新禧年…」／朱筆にて記載、手本カ
	一紙		「動物園にまゐり…」（3枚）／朱筆による添削あり
	一紙		「披露挨拶…」／朱筆による添削あり
	状		松岡純の成績表コピー 6枚（小学科第1年級、第6年級（2枚）、中学科第1～3年級）
三島純子殿	状		日本ガール・スカウト運動の発展奉仕に対して20年の永続奉仕章受贈
三島純子様 昌子様	書簡		入院中のお見舞いへの御礼と病状報告／一條智光は一條実輝公爵の養女。善光寺大本願第120世法主のほか、ガール・スカウト日本連盟長野県支部第11団委員長などを務める
三島純子様	書簡		お漬もの返礼
三島純子様	書簡		ガール・スカウト会報完成に送った祝いの品への返礼に対する御礼
	一紙	HOTEL Okura	台紙のみ／見返し書込「昭和六十二年四月七日寫 三島純 明治三十四年八月十五日生 満八十五才」
三島純子殿	状		日本ガール・スカウト運動の発展奉仕に対して35年の永続奉仕章受贈
三島純子様	状		日本ガール・スカウト運動の発展奉仕に対して50年の永続奉仕章受贈

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
2 38	中学科卒業証	大正8	1919	4	2	女子学習院
2 39	〔女子学習院中学科卒業写真〕	大正8	1920			
2 40	〔女子学習院中学科卒業写真〕	大正8	1920			
2 41	〔女子学習院卒業式写真コピー〕					
2 42	〔女子学習院卒業式写真コピー〕					
2 43	〔女子学習院中学科卒業写真〕	大正8	1920			
2 44	〔集合写真〕	大正期				
2 45	〔水彩画〕	大正期				松岡純子
2 46	〔水彩画〕	大正期				松岡純子
2 47	〔手習い〕	大正期				
2 48	〔手習い〕	大正期				
2 49	〔手習い〕	大正期				松岡すみ子
2 50	〔手習い〕	大正期				
2 51	〔手習い〕	大正期				松岡すみ子
2 52	〔手習い〕	大正期				松岡すみ子
2 53	〔松岡純成績表コピー一括〕					
2 54	永続奉仕章	昭和54	1980	5	6	社団法人ガール・スカウト 日本連盟会長 高山政子
2 55	〔三島純・昌子宛一條智光手紙〕	昭和59	1983	4	12	長野県善光寺大本願 一條 智光
2 56	〔三島純宛一條智光手紙〕	昭和59	1983	1	25	長野県善光寺大本願 一條 智光
2 57	〔三島純宛一條智光手紙〕	昭和59	1983	10	8	長野県善光寺大本願 一條 智光
2 58	〔写真台紙〕	昭和62	1987	4	7	
2 59	永続奉仕章	昭和63	1989	4	24	社団法人ガール・スカウト 日本連盟会長 三島昌子
2 60	永続奉仕章	平成11	1999	3	31	社団法人ガール・スカウト 日本連盟会長 永井かよ子

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	文鎮		桐箱「大正四年 皇后陛下恩賜」／竹3本の上に松毬・梅／法量縦14.5×横3.0×高さ2.2cm／メモ「明治四十三年 記念学習院女子部卒業 皇后陛下恩賜 松岡純子受」／松岡純小学科卒業年について正しくは大正3年
学習院女学部中学科第一 年級北組 松岡純	状		「主管 吉村」／主管は吉村千鶴
	一紙		敷物の水彩画
	一紙		難波津の歌（3枚）
	写真	東京九段 檀上写真館主檀 上新吉 電話番町（三四一） S.DANJO Kudan, Tokyo. TELEPHONE Bancho-341	台紙付／資料番号2-22に「女子学習院中学校科第二年級南組英語授業」という題で同写真が掲載／手前前列2人目松岡純
	写真	東京九段 檀上写真館主檀 上新吉 電話番町（三四一） S.DANJO Kudan, Tokyo. TELEPHONE Bancho-341	台紙付／裏書「純子中等科」／資料番号2-22に「中学科第三年級南組理科実験」という題で同写真掲載
	帖	九段坂檀上写真館	付箋多数／メモ同封／三島晶子氏メモには「松岡純が中学三年時にいただいたもの」とあり、大正5年に受け取ったこととなる
	冊		資料番号2-22の複製／付箋多数
	冊		資料番号2-22の複製／付箋あり
	絵葉書		4点／学習院女学部専修科中学科小学科学生作画蝶屏風「画蝶屏風（左ノ天）」「画蝶屏風（左ノ地）」「画蝶屏風（右ノ天）」「画蝶屏風（右ノ地）」／大正4年11月学習院女子部作成「大礼奉賀献上品絵葉書」
	絵葉書		2点／「学習院女学部専修科中学科五年級学生作 和歌帖」「学習院女学部幼稚園幼児作 図画手工帖」／大正4年11月学習院女子部作成「大礼奉賀献上品絵葉書」
	書籍		別紙「令旨」付／女子学習院教育の趣旨について学舎新築の際に出されたもの／帙付、帙見返しに「松岡純」とあり
学習院女学部中学科第二 年級南組 松岡純	状		「主管 吉村」
学習院女学部中学科第三 年級北組 松岡純	状		「主管 馬上」／主管は馬上孝太郎
	綴		表紙墨書「松岡すみ子」／朱書による添削あり／大正5年11月3日に立太子礼
	綴		表紙墨書「中三北 松岡すみ子」／朱筆による添削あり／資料番号2-30の朱書による添削が反映されている
	一紙		「父母伯叔兄弟…」（5枚）
	綴		綴表紙剥離／朱筆による添削あり／原稿用紙1枚共
	綴		
	綴		
	一紙		「勢いありとてたのむべからず…」／朱筆による添削あり
	綴		朱筆による添削あり

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
2 16	〔文鎮〕	大正3カ	1914			
2 17	大正三年度第一学期 学業成績表	大正3	1914			
2 18	〔水彩画〕	大正3	1914			中一北 松岡純子
2 19	〔手習い〕	大正3	1914			中一北 松岡純子
2 20	〔女子学習院中学科第2年級南組英語授業写真〕	大正4	1915			
2 21	〔写真（中学科第三年級南組理科実験）〕	大正4	1915			
2 22	大札奉賀献上写真帖	大正4	1915			
2 23	〔大札奉賀献上写真帖複製〕					
2 24	〔大札奉賀献上写真帖複製〕					
2 25	〔絵葉書（大札奉賀献上品絵葉書）〕	大正期				
2 26	〔絵葉書（大札奉賀献上品絵葉書）〕	大正期				
2 27	教学聖訓	大正4以降				学習院女学部
2 28	大正四年度第三学期 学業成績表	大正5	1916			
2 29	大正五年度第一学期 学業成績表	大正5	1916			
2 30	立太子の御儀を祝ひ奉る	大正5	1916			中学科三年級北組 松岡純子
2 31	立太子の御儀を祝ひ奉る	大正5	1916			中学科三年級北組 松岡すみ子
2 32	〔手習い〕	大正5	1916			中三 北松岡すみ子
2 33	女子と趣味	大正6	1917			中四北 松岡すみ子
2 34	花の下道	大正6	1917			中学科第四年級北組 松岡すみ子
2 35	〔手習い〕	大正6	1917			中四北 松岡すみ子
2 36	〔手習い〕	大正6	1917			中四北 松岡すみ
2 37	青天の雲雀 地下の蟻	大正7	1918			中五南 松岡すみ子

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「スカウトの友情」カールライシ神父筆・山中冬見絵（68～70頁）
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「欧州たより 第七回国際ボーイスカウト大会我等の天国」三島通陽筆（172～174頁）
	書籍	大日本雄弁会議講談社	
	書籍	大日本雄弁会議講談社	
	葉書		三島義温・昌子転居葉書／表面「昭和二十六年度太陽少年6冊 少年クラブ2冊」／整理の際に葉書をメモとして使ったものとみられる
三島通陽先生	書簡		青色罫紙3枚／先般発見した水師管会員のフィルムに関する教示の御礼について
三島通陽先生	書簡		青色罫紙（乃木神社戦災復興奉賛会）2枚／青色罫紙1枚／巻紙1枚（印刷）／昭和37年9月の乃木夫妻乃木神社戦災復興奉賛会常任理事（元学習院学生監）の馬場徹の紹介により、翌年乃木夫妻五十年祭に向けての社殿復興勸募状送付に伴い、元学生への挨拶状に三島通陽へ連名の依頼。また、勸募状・挨拶状を同封
三島通暢先生	書簡		綴2枚／原稿用紙2枚／乃木神社御造営奉賛会の顧問として三島通陽を推薦した旨の連絡。また乃木神社および乃木別邸の説明書作成に伴う記載予定の内容への質問。乃木神社御造営奉賛会趣意書を同封

	一紙		裏面に会場図あり／松岡純幼稚園時代
松岡純	状		「本部幼稚園ニ於テ二年間保育シタルコトヲ証ス」／朱印「学習院女学部」
松岡純	状		「小学科第一年級修了之証」／朱印「学習院女学部」
学習院女学部小学科第二 年級 松岡純	状		「主管 三輪」／主管は三輪もと
松岡純	状		「小学科第二年級修了之証」／朱印「学習院女学部」
	一紙		漢字の読み書き練習／原稿用紙（学習院女学部試験用紙）／朱印「松岡」
松岡純	状		「小学科第三年級修了之証」／朱印「学習院女学部」
松岡純	状		「小学科第四年級修了之証」／朱印「学習院女学部」
松岡純	状		「小学科第五年級修了之証」／黒印「学習院女学部」
学習院女学部小学科第六 年級 松岡純	状		「主管 木内」／主管は木内成
学習院女学部小学科第六 年級 松岡純	状		「主管 木内」／主管は木内成
	一紙		「社頭杉 大正三年正月試筆 松岡純」
松岡純	状		「小学科卒業之証」／朱印「学習院女学部」／緑割印「契」
	一紙		大正2年度学習院女学部小学科卒業に際する告辞ならびに式辞
	一紙		資料番号2-14のコピー

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
1 23	太陽少年 第2巻第9号 8月号	昭和26	1951	8	1	編集人 今井晴男
1 24	太陽少年 第2巻第13号 11月号	昭和26	1951	11	1	編集人 今井晴男
1 25	少年クラブ 9月号	昭和28	1953	9	1	編集兼発行人 加納勲
1 26	少年クラブ 12月号	昭和28	1953	12	1	編集兼発行人 加納勲
1 27	〔メモ〕					
1 28	〔三島通陽宛椿惣一書簡〕	昭和30	1955	12	25	長府博物館長 椿惣一
1 29	〔三島通陽宛菅井斌磨書簡〕	昭和36	1961	6	28	乃木神社 菅井斌磨
1 30	〔三島通陽宛手塚武司書簡〕	昭和37	1962	6	13	手塚武司

●三島（松岡）純

2 1	学習院女学部第廿四回明治四十年十月廿八日運動会次第	明治40	1907	10	28	
2 2	〔卒園証書（幼稚園）〕	明治41	1908	3	30	学習院女学部
2 3	〔修了証書〕	明治42	1909	3	30	学習院女学部
2 4	明治四十二年第一学期 学業成績表	明治42	1909			
2 5	〔修了証書〕	明治43	1910	3	30	学習院女学部
2 6	書取	明治43	1910			小学科三年 松岡純子
2 7	〔修了証書〕	明治44	1911	3	30	学習院女学部
2 8	〔修了証書〕	明治45	1912	3	30	学習院女学部
2 9	〔修了証書〕	大正2	1913	3	29	学習院女学部
2 10	大正二年度第一学期 学業成績表	大正2	1913			
2 11	大正二年度第二学期 学業成績表	大正2	1913			
2 12	〔書初め〕	大正3	1914	1	1	松岡純
2 13	〔卒業証書（小学科）〕	大正3	1914	3	31	学習院女学部
2 14	渡邊宮内大臣告辞 大迫学習院長式辞	大正3	1914	3	31	
2 15	〔渡邊宮内大臣告辞 大迫学習院長式辞コピー〕					

宛名	形態	出版社（書籍・写真）	備考（書き込み等）
	写真	東京市麹町区一番町 武林写真館	大判／裏書「三島通陽」／付箋「前列左より四人目」／目白校舎正堂前にて撮影
三嶋通陽	状		「初等学科第三年級修了之証」／朱印「学習院」
	冊		帙付、秩裏「三島通陽」／序文は明治30年1月
	冊		英語プリント・試験、ノート等を製本したもの／背表紙「熊本先生印刷物」（ママ）／熊本謙二郎（明治35～大正10年に中等科にて教鞭をとる）
	書籍	三光会	『三光』第1巻第1号～第2巻第10号／付箋「大正元年一月号より一ノ一中に明治天皇ご大喪乃木元帥ご葬儀 弥彦様渡欧記念外国の風景写真」／メモあり
	冊		表紙朱ペン「飯島先生 漢文帳 中等学科第三年級甲組 三島通陽」／メモ「通陽が学習院で学んだ漢文、文法、ノート三冊」
	冊		表紙朱ペン「鳥野先生 文法帳 中等学科第三年級甲組 三島通陽」／鳥野幸次（明治30～大正12年に中等科にて教鞭をとる）
	冊		漢文の学習ノート
	冊		表紙「大正二年四月一日ヨリ大正三年三月三十一日マデ 通知簿 中等学科第三年級甲組学生（黒印「■通」）三島通陽」／主管熊本謙二郎・寮長鳥野幸次・学生監石井忠利／別紙2枚「大正三年四月二日 卒業證書授與式參觀之證 学習院」
	書籍	三光会	『三光』第2巻第5号～第4巻第9号／付箋「完了 大正2年第2巻～5号より」／メモあり
	書籍	三光会	『三光』第4巻第1号～第6巻第4号／付箋「完了 第4巻の1月より」／メモあり／表紙剥離
	書籍	三光会	『三光』第4巻第1号～第6巻第4号（第5巻第1号、第6巻第1号欠、計15冊合本）／付箋「完了 大正4年1月発行第4巻の1号より」／メモあり
	冊	三光会	三島章道の原稿「十日の紀行記」（20頁）に大量の赤入れあり
	書籍	三光会	大正5年度に発行された第5巻第1～5号の合本
	書籍	三光会	『三光』第6巻第1号～第6巻第4号（計4冊合本）／付箋「三光合本 6巻1号2号3号4号 大正6年」
	フィルム		
	冊		原本は昭和5年、東京講演会発行／「三島通陽氏講演 南洋島巡りの話」
三島通陽様	書簡		
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「アメリカボーイスカウトを語る座談会」座談会に通陽が出席している（128～135頁）
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「ボーイスカウト中央実習所の一日」（88～93頁）
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「ボーイスカウトの話 なわむすび」中央実習所長・中村知筆（92～95頁）
	書籍	妙義出版社	表紙に「贈呈」印あり／特集「ボーイスカウトの話 感激の少年団員」ボーイスカウト日本連盟・詩芸留（108～111頁）

三島家史料目録

●三島通陽

資料番号	資料名	和暦	西暦	月	日	作成
1 1	〔学習院初等科集合写真〕	(明治36～44)				
1 2	〔修了証書〕	明治39	1906	3	31	学習院
1 3	教学聖訓	明治41以降				学習院
1 4	熊本先生印刷物 第壱・弍学期	(明治44～大正4)				三島通陽
1 5	三光 合本	大正元～2	1912～1913			編輯兼発行人 三島通陽
1 6	漢文帳	大正2	1913			三島通陽
1 7	文法帳	大正2	1913			三島通陽
1 8	〔ノート〕	(大正2)	1913			三島通陽
1 9	通知簿 中等学科第三年級甲組学生 三島通陽	大正3	1914			
1 10	三光 合本	大正2～4	1913～1915			
1 11	三光 合本	大正4～6	1915～1917			
1 12	三光 合本	大正4～6	1915～1917			
1 13	三光 第五卷四号 八月号	大正5	1916	8	15	編集兼発行人 三島通陽
1 14	三光 大正五年度	大正5	1916			
1 15	三光 大正六年度	大正6	1917			
1 16	〔新しき村フィルム〕	大正11	1922			三島通陽
1 17	〔「講演」第115編 コピー〕	昭和期				
1 18	〔三島通陽宛有島生馬書簡〕	昭和7	1932	12	7	有島生馬
1 19	太陽少年 第1巻第9号 12月号	昭和25	1950	12	1	編集人 今井晴男
1 20	太陽少年 第2巻第2号 新春号	昭和26	1951	1	1	編集人 今井晴男
1 21	太陽少年 第2巻第4号 3月号	昭和26	1951	3	1	編集人 今井晴男
1 22	太陽少年 第2巻第7号 6月号	昭和26	1951	6	1	編集人 今井晴男

